

中学校外国語科の事例

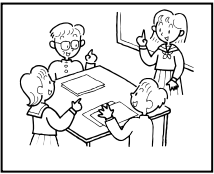

設定した言語活動を通して育てたい力

- 書き手の意見に対して賛否とその理由を示すことができるよう、書き手の考え方をとらえながら読むことができる。

思考力の育成

- 学年 第3学年
- 単元名 Unit 5 Cell Phone - For or Against
- 本時の目標 意見文を読んで内容を把握し、それに対する自分の意見を話すことができる。
- 学習の流れ (10・11時間目/全11時間)

《前時までの学習内容》中学生が携帯電話をもつことについての意見を読み取る

学習活動	指導上の留意事項	評価規準〔観点〕 (評価方法)
1 あいさつをする。 2 めあてを確認する。	・本時では、意見文の内容を理解するだけでなく、後で意見文に対する自分の意見を発表できるように読むことが目標であることを明確に示す。	
3 意見文「住むなら田舎か都会か」を読んで、内容を理解する。 	・読むときの視点を与える。 ポイント1 相手の意見(最も伝えたいこと)を読み取る。 ポイント2 その理由(根拠)を読み取る。 ・表やマッピングを使って、相手の意見と理由をメモさせる。 ・メモは英語で、キーワードで書くように指示する。 ・自分は賛成か反対かを明確にさせる。 ・表やマッピングを使って、考えを広げさせる。 ・理由を選び、順序を考え、番号を付けさせる。	・書き手の意見を批判的に読むことができる。〔外国語理解の能力〕(ワークシート) 
4 自分の意見(賛成・反対)とその理由を考える。		
5 ペアで意見を交換する。 (1) 意見の交換 (2) アドバイス (3) 意見の修正 6 考えを全体で発表する。	・自分の意見を明確に述べ、そのあと理由(根拠)を述べさせる。 ・複数の理由(根拠)を述べる場合には、順序を考えて筋道を立てて話させる。 ・アドバイスを活かして、意見を修正させる。 ・聞き手に正しく伝えるための視点を押さえる。 ・発表者の意見がわかりやすいかどうか、論理的であるかどうか、アドバイスを述べ合わせる。 ・聞き手としての視点も示す。	・自分の意見を理由を付けて論理的に話すことができる。〔外国語表現の能力〕(活動の観察、ワークシート、振り返りカードの記述)
7 自分の意見を書く。 8 本時の振り返りをする。	・読み手を意識した書くことの視点を押さえる。 ・めあてについて、振り返りをする。	

言語活動の充実

指導のポイント

読んだ後に自分の意見を表現することを意識させて、意見文を読ませる

- 意見文を読むときに、後でこの意見文に対する自分の意見を表現することを意識させて読ませましょう。このことによって、読み手として主体的に考えながら内容を理解することができるようになります。

内容理解を目的に読ませる

工夫

意見文に対する自分の意見を表現することを意識させて読ませる

「読むときの視点」や「メモの取り方」を明示し、内容を把握させる

- 「読むときの視点」や「メモの取り方」等を明示し、書き手の意見とその理由が明確になるような読ませ方をさせましょう。書き手が伝えたいことを論理的に理解することができるようになります。

読むときの視点

- 1 相手の意見(最も伝えたいこと)
- 2 その理由(根拠)

メモの取り方

- 1 キーワードを英語でメモする。
- 2 表やマッピング等を活用する。

自分の意見を整理させるために表やマッピングを活用させる

- 書き手の意見を整理するのに活用したのと同じ表やマッピング等を活用することによって、相手の意見とその理由と比較対照しながら、自分の意見とその理由を明確にさせましょう。そうすることによって、学習場面5, 6において、自分の意見を明確に表現できるようになります。

相手の意見	理由
countryside	1 mountains
	2 clean air
	3 kind people
自分の意見	理由
city	1 easy to move
	2 many places to play
	3 many hospitals

新学習指導要領では

書き手の意見などに対して、賛否やその理由を示すなどすることができるよう、考え方をとらえながら読む言語活動を重視

- 今回の改訂では、読むことの指導において、話の内容や書き手の意見などに対して感想を述べたり賛否やその理由を示したりなどすることができるよう、書かれた内容や考え方をとらえながら読む言語活動が新たに示されました。これは、「読むこと」の活動であっても、単に知識等を得ることにとどまるのではなく、「読むこと」を通して得た知識等について、自らの体験や考えなどに照らして「話すこと」や「書くこと」と結びつけることが大切であることを示しています。
- 本事例では、「書き手の意見とその理由をとらえながら読む言語活動」を位置付けています。話す活動と結びつけた読む活動を設定し、その読む活動において、書き手の意見を整理するために表やマッピングなどを活用させることによって、書き手の意見を適切に理解することができるようになります。